「鹿児島大学が所蔵する近代化に関わる法学・政治学分野の貴重書の電子化事業」

プロジェクト参加教員

鳥飼貴司（法経社会学科法学コース 教授）・米田憲市（法経社会学科法学コース 教授）・植本幸子（法経社会学科法学コース 教授）

役割分担：鳥飼・米田・植本＝事業の推進

助成額

50 万円

プロジェクトの目的

当プロジェクトの目的は、法学・政治学分野の視点から、鹿児島大学内に事実上死蔵されている「鹿児島の近現代」を知る上での重要史料を探索・選別し、鹿児島の近世・近代史研究を活性化させる上で優先度が高いと判断されたものを電子画像化することによって、広く一般の利活用を可能にするとともに、今後さらにＯＣＲによる文字情報の電子化やそれを踏まえたデータベースの構築などのより高度な利活用を実現するための条件を整えることである。

特に、本プロジェクトでは、鹿児島大学学内の史料の中で優先的に電子化するべきものを選別する作業と、特に意義があると判断されたものを電子画像化することを具体的な取組みとした。

今回選別作業の対象とするのは、法文学部２号館の旧法学コース資料室に大量に配架されていながら鹿児島大学附属図書館に登録されていない、戦前から戦後しばらくまでの裁判所や司法省・法務省の刊行物で「部外秘」「禁転載」などとされている図書群や、鹿児島大学附属図書館が多くを固有所蔵している、我が国の近代化を担ったエリートの情報が集約されている旧帝国大学のＯＢ会名簿である『學士會會員氏名録』をはじめとする鹿児島大学附属図書館で貴重書に位置付けられ、破損可能性などが考慮されて事実上閲覧できない（死蔵されている）史料群である。

これらを評価し、選別して、優先度が高いと判断できるものを電子画像化してゆく作業は、公募要項に記載されている「「近世・近代」に関する歴史的に貴重な遺産（書籍、遺跡・遺物、文化財）の保存・データベース化し、これを用いた鹿児島の近世・近代史研究を活性化させる」ことに繋がるものである。

プロジェクトの内容

このプロジェクトでは、主として米田が史料の探索・選別作業を行い、必要に応じて、鳥飼教授、植本教授の助言を得て、作業を進めた。

（１）旧法学コース資料室の諸史料の選別作業

法文学部２号館の旧法学コース資料室に大量に保管されていた戦前から戦後しばらくまでの裁判所や司法省・法務省の刊行物は、法文学部２号館の改修で資料室そのものを廃止することになったため、すべてが段ボールに収められ、それが積み上げられた中から、改めて箱を開け直して、ひとつひとつを点検・整理するという作業となった。

司法政策教育研究センター資料室に仮置き中の、旧法学コース所蔵の史料類（撮影：米田憲市）

それらの史料は、「部外秘」や「禁転載」と書かれていたり、裁判所、検察庁などの実務運用のための内部資料であったりして、当時の司法制度とそれを取り巻く社会情勢の事情を反映する貴重なものばかりであったが、おおよそ、「外国の法制度やその関係学説」、「家庭裁判所における家族・少年事件の運用指針」、「陪審や行政事件を含む訴訟実務の運用指針」、「その他調査など」と分類されるものであった。そのなかで、沖縄以南を対象としたものであるが、法務府法制意見第４局「法務資料第 320 号　南島村内法（民の法の構成訴因・目標・積層）」（昭和二七年二月）は、「生ける法」を明らかにしようとするものであり、奄美以南の南西諸島域文化圏の「法と社会」を理解する手がかりとして、これを見出したことは収穫だった。

これらの史料を、「鹿児島の近現代」との関わり、国立国会図書館の所蔵・公開状況、今後の保存の意義などの観点から点検・評価した。

（２）鹿児島大学附属図書館の貴重書関係の選別作業

鹿児島大学附属図書館の貴重書関係の選別作業については、今後の研究の展開可能性を踏まえて『學士會會員氏名録』に焦点を絞った。その理由は、「氏名」「原籍」「学位称号」「卒業年次」「学科」「勤務先職業」「宿所」が、おおよそ氏名の５０音順に掲載されており、また、「地方別會員」の章があるなど、電子画像を用いての研究探索のうえでの利便性が高いことが第一。また、単一様式の表組みであり地名など同じ文字が多数現れるためＡＩなどの技術に馴染みやすく、ＯＣＲによる文字情報の電子化やデータベースを構築する上で利便性が高いと考えられたからである。

写真は、鹿児島大学附属図書館所蔵の『學士會會員氏名録』（撮影：米田憲市）

そのうえで、あらためて『學士會會員氏名録』の全国の所蔵・公開状況を調査して、鹿児島大学附属図書館の固有所蔵であるかの確認を、国立国会図書館オンライン、国会図書館デジ

タルアーカイブズ、Webcat Plus、CiNii などによって行った上、他館との重複所蔵の場合には他館の公開状況について、閲覧手続を確認したり、直接電話で問い合わせて確認したりする作業を行って、電子化すべきものかの評価・選定を行った。

（３）選定作業の結果

（１）（２）の作業の結果として、『學士會會員氏名録』大正 5 年（玉利文庫 430）と『學士會會員氏名録』大正 6 年（玉利文庫 431）を電子画像化し、それを鹿児島大学附属図書館に寄附することにより、これらを研究や調査活動での利用を可能にすることとした。その理由の大きなところは、（１）で選ばれたものは、国立国会図書館デジタルアーカイブズで既に公開されているものと重複していたことと、（２）の中でも当該２巻は、東京大学図書館とのみ重複所蔵であるものの、国立国会図書館デジタルアーカイブズで閲覧できず、鹿児島大学附属図書館で連続的に閲覧できる環境を有することが、一般の利活用に資すると判断したからである。

プロジェクトの成果

（１）一般の利活用の確保

上記の通り、本プロジェクトの成果として、『學士會會員氏名録』大正 5 年（玉利文庫 430）と『學士會會員氏名録』大正 6 年（玉利文庫 431）が、鹿児島大学附属図書館で貴重書閲覧手続の下で研究教育に利用可能になるとともに、『學士會會員氏名録』については、「明治 43 年」「明治 44 年」「大正元年」「大正 2 年」「大正 9 年」「大正 14 年」「大正 15 年」版についての電子画像を、鹿児島大学附属図書館が所蔵しており、これに「大正 5 年」「大正 6 年」が加わることで、鹿児島大学附属図書館と国会図書館デジタルアーカイブズとで、各館が所蔵する２１巻のうち１６巻、７５％超が鹿児島にいながら電子画像で閲覧可能になった。

（２）電子画像化された『學士會会員氏名録』の概要

大正 5 年版に 15202 人、平成 6 年版に 17184 人が掲載され、鹿児島支部に、それぞれ、138 人、140 人がリストされており、各人の情報を得られる。

●『學士會會員氏名録』大正 5 年
（玉利文庫 430）
データ形式　TIFF　JPG　PDF　（３種類）
ページ数：表紙を含め見開き４９９ページ
鹿児島在住会員１３８名

●『學士會會員氏名録』大正 6 年
（玉利文庫 431）
データ形式　TIFF　JPG　PDF　（３種類）
ページ数：表紙を含め見開き５４４ページ
鹿児島在住会員１４０名

成果物ＤＶＤからのスクリーンショット。上が大正５年版、下が大正６年版。

プロジェクトの成果物

『學士會會員氏名録』大正 5 年（玉利文庫 430）電子版

『學士會會員氏名録』大正 6 年（玉利文庫 431）電子版

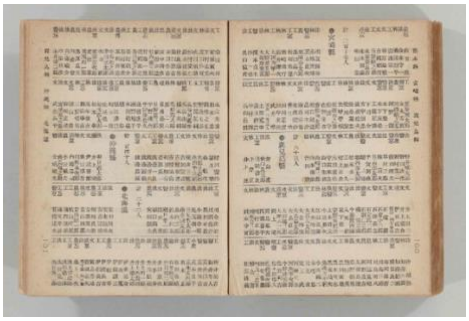
下記からの手続を通じて閲覧可能

〇鹿児島大学附属図書館における貴重書の利用

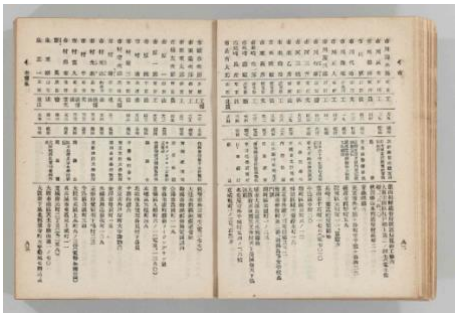
https://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/ja/collection/about?fbclid=IwAR1dmzIwPlHKrlkjoaosOshqnQDVg_sYMgvZq03XzAcfjX5yObRrm9zX0rY

	TIFF		JPG		PDF	
	ファイル数	ファイルサイズ	ファイル数	ファイルサイズ	ファイル数	ファイルサイズ
大正５年版	498	459Mb	498	511Mb	1	203Mb
大正６年版	533	661Mb	533	621Mb	1	238Mb

成果物 DVD から。大正 6 年版の表紙からのスクリーンショット。



成果物 DVD から。大正 6 年版の「地方別會員」のページからのスクリーンショット。



成果物 DVD から。大正 5 年の「イ」のあるページからのスクリーンショット。